

琉球大学学術リポジトリ

必要書類集

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション : 琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内 (みやらどうんち) キーワード (En): In Collection: The Miyara-Douchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: 宮良當整 (筆写) , 2021/9/8 16:10 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/49240

記す中ハ廿一俵付定額ハ右内一俵付信々
 額又ハ何イ元マ義スル俵付定額ト云コガル南海
 一丁ノ平均額モ右内ノ廿一俵付標準ナリ
 賦金ノ元金ノ數ノ俵付定額ヲ平均シ其平均額
 額ノ記入コトヤ又ノ賣買價格モ甲ノ
 額法ニ依ル標準トナシヤモリシ
 賦金セウシタルモノトハル其標準トシテ
 賦多セト云ヒタルノ爲メニ總計ノ定額シ
 乙号ノ酒子ハ配入スル中ノ之ノ再々賣買價格
 同の内内一俵付標準賣買價格又ハ三丁
 賣買價格カモメ平均價格賦金ノ
 為メスルヤ又平均ノリ又平均ノ元金標準

平均シテ酒子セシ三丁ノ爲メニ俵付價格
 シ配入スルヤ又ハ又三丁ノ平均價格シ配入
 コトヤ又買買ノ俵付定額賣買ノ元金
 賣買ノ平均ノリ又平均ノリ又平均ノ元金標準
 價格シハ三丁ノ爲メ
 右ノ賣買ノ額賣買ノ元金ノ俵付標準
 俵付標準ノ元金ノ賣買ノ元金ノ俵付標準

記す中ノ元金

平均ノ元金

平均ノ元金

本年ノ元金ノ平均ノ元金ノ平均ノ元金
 平均ノ元金ノ平均ノ元金ノ平均ノ元金

石井のふん
三つらふにむす

石井のふん
三つらふにむす

石井のふん
三つらふにむす

石井のふん
三つらふにむす

石井のふん
三つらふにむす
石井のふん
三つらふにむす
石井のふん
三つらふにむす
石井のふん
三つらふにむす

石井のふん
三つらふにむす
石井のふん
三つらふにむす
石井のふん
三つらふにむす
石井のふん
三つらふにむす

石井のふん
三つらふにむす

石井のふん
三つらふにむす

石井のふん
三つらふにむす

甘藷発育、景况報告
甘藷発育、景况報告
甘藷発育、景况報告

新城村民等栽植中、耳諸ハ去ル六月下旬頃マテハ発育良好シ呈コタレカ其佳度マ、慕風ニ葉蔓吹傷サレ加フルニ八月下旬以来降雨ナリ為メニ吹傷ノ依発芽能ハス今ヤ及公葉蔓枯朽ノ姿ニシテ其根芽膨脹薄、且ツ寡ク目下ノ景况甚ク不良ナリ
右及報告矣也

新城村頭

宮良當整

明治廿五年十月十五日

八重山郡間切役場御中

山藍発育、景况報告

新城村民等作付、山藍ハ今年新芽二八号シ以テ報告、如ク前年捕付、公ハ佳良ナリシカ其佳度マ、慕風ニ莖吹傷セ、如ク之八月下旬已迄降雨ナリ為メニ吹傷ノ依依然トシテ芽葉発生セス目下ノ景况不良ナリ
右及報告矣也

新城村頭

明治三十五年十月十五日
八重山郡間切役場御中

宮良三整

米作開花ノ景况報告

當新城村民等本年作付ノ稻ハ客年十二月
中旬頃播種本年二月中旬ヨリ挿秧ニ始メ
三月中旬頃ニ至リ完了ス時節相當ニミテ
爾后雨量適順田面用水充分ナリシガ天
水田ハ奈何ナル故ニヤ水虫ヲ生シ其幹根
水面ノ灌際ヨリ競切セラレ皆喪トナリ
其被害凡拾五町餘ニ及フヨ水田ノ多ハ
異状ナリ生育順ニ経過シ且月上旬ヨリ
全下旬頃マテニ早中晩作何モ納花シ今ヤ
早作ノ穂半ニ熟シ模様恰モ好シ以上ノ如ク
虫害ノ場所アルモ成長ヲ得タル部分ハ
目下ノ景况可良ナリ
右及報告矣也

新城村頭

明治三十五年之月三日

宮良三整

八重山郡間切役場御中

耳諸作發育ノ景况報告

新城村民等本年作付ノ耳諸ハ早晚作何モ
挿付后雨量加減ニシテ潤澤饒裕ナリシ
故發育佳良シ呈ス而シテ客年十二月已
降今日マテ栽植反別凡五十三町七反歩ナリ

右及報告交也

新城村頭

官良互整

明治三十七年六月十五日

八重山郡間切役場御中

春季原勝負景況報告

新城村當春季原勝負組ハ甲乙丙丁巳庚
七組ニシテ各組長及村役者吏負一同互
會實地出張檢閲勝負ヲ判決ス審査ノ要
点及等級定付ノ法方ハ土地肥沃確
別ノリ一體ノ耕耘ノ可否ヲ論ニ上下二
段ニ分ケ上等ハ現在反別ノ修ミシテ下等
ハ十中二分ノ減シ八分ト異用更定ムテ

其修業成績ヲ該業者ノ平均較照對シ
其反別ノ及キヲ勝トス其照對差引ノ結果ハ
一等丁組二等甲組三等乙組四等庚組五
等己組六等戊組七等丙組ニ相並ス依テ
各組長シ始メ村民一同事務所集會サセ
等級順序ノ如ク列席セシメ右ノ結果ヲ
説明報告結終リテ一等二等ハ褒詞ヲ與ヘ
三等以下ハ優勝ノ組ニ對シ負劣ノ謝辭ヲ
述頓首セシメ以テ輸贏ノ效驗ヲ表ス然リ
而シテ小職ハ一同ニ對シ將來一層奮勉
シテ其成績好ラシク奨励セリ
右及報告交也

明治三十六年六月

新城村頭

宮良直整

八重山郡間切役場御事

除時報告

里島島七十四番地は定而美八ヶ所其地
西舟加加三多々之ヶ所其地寄留玉八艘有
三人南敷島字力廿奇有り果島石へ向て行
舟材木敷本其他山貝等積入舟之ヤ百有
七此舟出帆一由其舟中諸見船一及
系舟頭覆後七上西舟道三及八在舟
知シ指し遊ギ也卷之玉以船一及八其時見
船一及八後頭覆一舟自舟中諸見船一及八

見の三ヶ所舟は能く見渡し後諸流一及八
致流は流名不に見の十ヶ所にて此舟一及八
考シ換へ舟ヲ離シ後舟おシ指し三ヶ所
舟此三ヶ所は舟が寄留常諸舟は其別列
申出之し以候事有也此舟は探見人等
其直色々舟之探索は其舟は其見
五人及舟見等舟一及八舟が其見
舟探見り也

御事

二子良直直整

八重山郡間切役場御事
除時報告

舟は海の大座保の利の九谷女と云々
と船の上へ向て各刺舟四艘之等也
此等先舟海に居る者、海中に居る、
只記り其時舟、舟大座保之利か
舟為高の距ル凡七八町程、沖に
海人各船を所、海中に居る者、
力に中、於直に、其の船、
陰に、其の船、其の船、
風は、其の船、其の船、
り、其の船、其の船、
今、其の船、其の船、
古、其の船、其の船、

舟は海の大座保の利の九谷女と云々
と船の上へ向て各刺舟四艘之等也
此等先舟海に居る者、海中に居る、
只記り其時舟、舟大座保之利か
舟為高の距ル凡七八町程、沖に
海人各船を所、海中に居る者、
力に中、於直に、其の船、
陰に、其の船、其の船、
風は、其の船、其の船、
り、其の船、其の船、
今、其の船、其の船、
古、其の船、其の船、

此の書は七巻七巻と云々
舟は海の大座保の利の九谷女と云々

公家山多田河作助殿

記

別号

一 刻舟之船主人

外宿中三番地

三番地

友利可平
友利代助

一 三之船主人

三番地

三番地

武元龜
武元山戸

一 三之船主人

三番地

三番地

三番地

大山保久判
安里
西表之
御

一 三之船主人

三番地

三番地

但四船主人之字之終在舟中出光

一 三之船主人

三番地

三番地

大底保久判
大底保久判

一 三之船主人

三番地

三番地

新保久判
大底石戸

一 三之船主人

三番地

京龜

救助舟流迷せし三文字舟誤渡深失し五之ハ
 字「ハ」ガカレト申情確^ニ（此處ガ距離ハ舟出内ガ多）
 遊渡居タレシ救助舟三文字ガ法ガ以テガ名
 一舟ナレバ子「キ」等ト云フ海岸ニガは
 依テ遊渡多ク航路難^カ以テ未^ニ内河ガ米
 石匠多クハ海多クハ津居^テハ俄^ニモ深ノ
 流ル^レ遊渡^ルカ人々舟誤渡多クナリ
 反^テ學^バ多ク人々夜夜^ニ舟^ノ誤^ルカ人々
 控^メテ^ハシ結^ス末^ニシカ能^リ辛^ク「^ハ字^ハ」
 バカ^シナル情^ヲ確^クニシテ遊^ル（誤^ル度^ハ何^カ）
 暗^ク恐^ムニ^テ凡^ソハ^モ内^ガマ^リト云^フ（此^ノ中^ニハ^ハ助^カ救^フ）
 依^テ「^ハ」字^ハ「^ハ」スル^レシハ^ハ「^ハ」中^ニ出^ル「^ハ」

別字流米物品ガ測^ルガ所^ニ存^スガ舟^ノ誤^ルカ

此處ハ

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

〇流^ル「^ハ」字^ハ「^ハ」

一 孩子仲之り
 一 嫂財采在雁尾之付
 右 妻のり也

此為如江
 高良之忠

此為常於高良
 高良之忠

此為常於高良
 大國三之戸

此為常於高良
 高良之忠

年 齡 十 九

此為常於高良
 伊 佐 次 良

此為常於高良
 伊 佐 次 良

此為常於高良
 伊 佐 次 良

此為常於高良
 伊 佐 次 良

右 不 刺 丹 子 及 其 子 也
 此 後 之 事 丹 國 曾 及 七 三 三 公 子 常 也 高 良 忠 也
 此 後 之 事 丹 國 曾 及 七 三 三 公 子 常 也 高 良 忠 也
 此 後 之 事 丹 國 曾 及 七 三 三 公 子 常 也 高 良 忠 也

其由は此の如きなり

此處に於て

此の如き事ありしを以て、
官道長を以て
守軍として司馬川作助殿

報告

一 今回、戦後、於ケル出征軍人ノ家族ヲ
慰問スレハ各自共業事軍務ニ従事シ
居ル旨度ヲ音信アリシラ以テ安心シ
且ツ各自家族就シモ無事一端加勉志
編氣セリ今業務ニ勉強シ家事上不便
ナク營々居レリ

一 在郷軍人補充兵高那加美ハ四月下旬

頃ヨリ病氣シ煩ヒ以テ迄平愈ナク目
下療養中ナリ

一 出征軍人家族生活状態ハ各自ノ程度
素ヨリ甲乙ノ異同ナキニアラザレモ
各自妻女ノ資力アリ且ツ前記ノ如ク
就シモ業事業務ニ従事スルヲ以テ生
計上困難ナク加フルニ其家族ニ對シ
テハ村民等一同協議シ上各家族ニ名
ツ、村役夫ヲ免除シ(見銘ノ村役夫ノ職
扶助シナセリ)

竹富村頭

右及報告也

明治廿八年十月九日

宮良寺整

八重山島司黒川作助殿

去季辱勝負之儀、承蒙賜教、誠感厚意、

組合

一 勝負但八甲乙丙之三組下又

一 田草等系ノ良否上中下三處、區別授書シ

其点教付ハモ及矣、付上六点中八点下六點

一 粟栽培ノ良否々々

一 青豆々々

一 茄子々々

一 黍々々

一 蕎麦々々

一 耳々々

一 耕地整理ノ良否々々

仙りノ点、斗点、板ハ七處、其別白モ一

斗内点、数ノ差、ハ或元ノ下又

一 刻舟ノ点、砂子、糞、此ノ良否、上中下三

處、各々モ、其、上、中、下、六、点、下、

一 養長、梅、梅、送、ノ良否、上中下三處、各々

モ、筒、内、点、板、々々

一 堆糞、肥料、糞、送、ノ良否、上中下三處、各々、筒

内、上、六、点、下、三、点、下、又

一 各、腦、更、梅、送、ノ良否、上中下三處、各々、筒

内、上、六、点、下、四、点、下、又

一 既中生に海を、良きものを
 一 勝尖の三處に分て凡の目おり以上ハ
 お点おおりの内ハ五とトス
 但し、りな合中おねハ戸別刻のし
 その戸内おねシ先ツヤモノトス
 勝肩負の定むる之ハ
 一 勝肩負の定むる之ハ刻のし之ハ
 その戸内おねト戸内刻のし之ハ
 年内おねシ合備し之ハ合備之ハ
 シ三組共ニ取致し對し之ハ取
 勝トス

一 勝肩負の定むる之ハ

一 勝肩負の定むる之ハ刻のし之ハ
 其の戸内おねト戸内刻のし之ハ
 年内おねシ合備し之ハ合備之ハ
 シ三組共ニ取致し對し之ハ取
 勝トス

一 勝肩負の定むる之ハ刻のし之ハ
 其の戸内おねト戸内刻のし之ハ
 年内おねシ合備し之ハ合備之ハ
 シ三組共ニ取致し對し之ハ取
 勝トス

一 勝肩負の定むる之ハ刻のし之ハ
 其の戸内おねト戸内刻のし之ハ
 年内おねシ合備し之ハ合備之ハ
 シ三組共ニ取致し對し之ハ取
 勝トス

此の如し
 其の如し

右の如く川内信州の所此の如く信州の
所川内信州の所此の如く信州の

報告

一今由、戦役ニ於ケル出征軍人ノ家族
ヲ慰問シタルニ前大底石戸及前三盛
兼方ヨリハ頃日モ奥事軍務ニ従事シ
居ル旨音信アリシコト、各家族一
同安心シテ奥事軍務ニ勉強シ家事上
不使ナシ又平良山戸人仲本真那方ヨリハ
容月初頃音信アリシ、ニ就中平良方
ニハ家族一同奥事職務ニ勉勵シテ家
上差向ナキモ入侍本方ニ於テハ弟真

那ハ容月末頃飯匙蛇咬傷セラレ療養
中ナリガ漸次輕状シワ、アリ又弟真
津又全加那二人ハ五六日前ヨリ流行
ノ熱病シ煩ニ伏臥中ナリ、依リ目下
農作物收穫、時季ニテ其收穫上不便
ナリシコトシ慮リ村民計リテ手傳セント
申込シモ其父母ノ壯健ニシテ業務
従事セリ故過半ノ收穫シ終ニ餘リ困
難ニ至ラストテ村民ノ越助シ謝絶セリ
一在郷軍人補充兵高那賀美ハ豫テ病氣
臥床中ナリシモ今ヤ平愈ニ赴ケリ

右及報告也

竹富村頭

宮良富整

明治三十八年六月廿日

八重山島司黒川作助殿

報告

一 今因ノ戦役ニ於ケル出征軍人ノ家族ヲ慰問シムルニ各自共ニ兵隊事務ニ従事シ居ル旨頃日モ音信アリニシテ以テ各家族一同安心ニ居レリ又各家族ノ状況ヲ視察スルニ前大底石戸及前三盛兼平良山戸ノ各家族ハ兵隊ニシテ業務ニ勉勵セシモ入仲木真那方ニハ弟加那ハ以前ヨリ頌ニシテ流行ノ熱病未タ全治

ナク時ニ発熱スルアリ又母カイニハ七八日前ヨリ流行ノ熱病シ頌ニ伏臥中ナルニ輕症ト見置ラレ且ツ以前飯匙蛇咬傷セラレ療養中ナリニ弟真那及流行ノ熱病シ頌ニ居ルニ弟真津ノ二人ハ狀氣シ得今ヤ他ノ家族一同業務ニ従事セル故家事上不便ナシ
一 在御軍人補充兵金城加那ハ客日未頃ヨリ熱病シ頌ニ同療養中ナルガ狀腹ナク今ヤ一日乃至二日越ニテ熱発スルアリ又高那賀美以前頌ニ病氣ハ平愈ニ居レリ

右及報告表也

明治三十八年七月十九日

竹富村頭宮良當整

八重山島司黒川作助殿

報告

一 今因一戰役に於ケル出征軍人ノ家族
 之慰問シタムニ各自共樂事軍務ニ従
 事シ居ル旨頃日モ音信アリシトテ安
 心シ且ツ各家族ニ就シ樂事業務ニ勉
 強シ家事上不侵ナリ望メ居レリ

一 在郷軍人補充兵東金城加那ハ以前ヨリ
 煩ノ熱病目今モ同状ニシテ療養中ナリ

右及報告表也

明治三十八年九月廿日

竹富村頭宮良當整

八重山島司黒川作助殿

報告

家内慰問書お返り致し奉り居り申上り此の如く申上り

三島地誌

夏 京 藩

年 齡 三 十 二

各都府県地方官署他々以て等不行

年 齡 三 十 二

年 齡 三 十 二

全社社受心奉也久氏不獲其府管心願事心奉也
又得寧留 兼

心務也甚也不得

年數年八位

長溪加那

頁數三十三位

た名共申之ニハ大川心番地之谷不修止事留
田預某所居傳言私田至備有凡好激浪及又
然志屋之而事ノ言ヲ指シ濡流存其捕獲ノ為人
所之ニ因致ニ度ハレ之ヲ去テ仍ハ刺舟乘出
古時守船備至ノ船艘ニ是ツモ全舟積入
大川カテノ海岸出立先々前ハ山ハハ候ニ神古

年ノ言存心要候テ（林邊ニ離れ）一坊持万舟乗
出九世付テ私多後ノ縁言田意ノ船艘ノ候シ
帆程ノ外又言ノ私出ノ候ニハ濡流ノ為人候
舟トナリ且刺舟モ積入ルルニ去テハハトナリ
望出スル子剛ノ船浪ノ為人候付ハ又ニ言方候テ
一回做儀ノ上全舟ハ控至小島迄迄向ケテ去ル
敵船メ尋共ニシテ内 愛原ノ舟ノ一人ハ心言ノ
老心字字候事ノ候言ノ候言ノ候言ノ候言ノ候言ノ
一切見テハ文レ候年程ノ川カ要志原ノ候出候シ
在船中候中事也此等ニ云云法柳原海岸ノ色方ハ
白海草心ニ云候法岸控元シ且事候探察人等

備三探査は終りぬ念テ亦り必し之を考へ
及報告せり也

暇より八月二十七日

中島お頭宮良を怒

三才心多石川作助殿

報告

一 今由、戦役ニ於ケル出征軍人ノ家族シ
慰問ニ々々ト各自共、喪事軍務ニ従事シ
居ル旨、辺項モ音信アリシトテ各家族
安心シ居レリ
一 又各家族ノ状況シ視察スルニ前大底
石戸及前三島、美子、民山、戸ノ各家族ハ

喪事軍務ニ勉強セシガ入仲本、真那方ハ
弟加那ハ四廿日前ヨリ目下流行ノ麻疹
シ煩ニ伏臥中ナルモ軽症ト見置ラレ
又他ノ家族ハ喪事ニシテ業務ニ従事シ
家事上不便ナク営メ居レリ
一 在御軍人補充兵東金城加那ハ以前ヨリ
煩ニ熱病同今モ同伏二日越ニテ熱
疾スルアリテ療養中ナリ

右及報告也

明治三十八年十一月廿日

竹富村頭宮良三整

重山島司黒川作助殿

大川守等第の學後此處を教傳改築因机
トシテ此處を人の民也云々或加奈分守名有り
應守の後云々此處を山守也其後丹波本代傳
上守傳此處を山守也其後丹波本代傳
置ニタレモノコト也此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳

山守之記

此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳

此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳
此處を山守也其後丹波本代傳

山守之記

此處を山守也其後丹波本代傳

近佛、此年より雨多し、水は不足あり、故に
のれ、三月八日、雨多し、

公事、此年、雨多し、

第三八、麦作豫想

本年、前年、比、作付、減スルハ、苗入、時節、降雨、
少ク、因リ、豫定、反別、播種、能ハル、
カ、メ、ナリ、

備考

一、前年、比、作付、減スルハ、苗入、時節、降雨、
少ク、因リ、豫定、反別、播種、能ハル、
カ、メ、ナリ、

一、何ノ害ナリ、良好シ、呈シタルガ、過半ハ、雨花、
際、南烈シク、カ、メ、倍、美、於テ、又、女、障、害、
豫想、収獲、高、減、十、八、廿、被害、アル、又、作付、
反別、減スル、伴、フ、ガ、故、ナリ、
一、作付、ミテ、目下、出穂、始メ、カ、シ、等、アリ、成、育、
並ニ、認メ、リ、他日、麦、災、ナ、ケ、レ、ハ、稍、可、畏、ナ、リ、
一、三、十、六、年、以、年、ハ、作付、及、収獲、等、考、ス、マ、キ、モ、
ナ、シ、依、テ、年、間、ハ、空、圃、シ、存、ス、

右及報告書也

明治三十九年三月八日

竹富村頭宮良高村

八重山島司中馬孝吉殿

本年、前年、比、作付、減スルハ、苗入、時節、降雨、
少ク、因リ、豫定、反別、播種、能ハル、
カ、メ、ナリ、

七、五、三、四、七、九、五、四、

五、六、

減、三、五、文、

報告

林道七三万七千七百七十九

吉渡登加利

安永元年三月廿七日

松七三万七千七百七十九

大底一松

明治五年四月廿七日

古く刻舟を復し由利後載りしと云ふ三百廿九年の
中川より出発大底松の解りたり吉渡をしが利ハ
帆は流に流り水は急なる向うに船中が揺りたりヤ
夫れは離れ凡そ海軍内之沖合に吉渡の海中に
墜落したる事なり大底松の事なり帆の事なり

播磨守小太郎ハ吉渡ハ凡そ吉渡内分
離してハ舟ノ事なり其れ南満洲と云ふ吉渡ハ
尺矢久し住世色色シ清国に探見せし事也
此語百字昔好長十一年の事也其後
農務省に在りて其れを以て其れを以て
彼先人より其れを以て其れを以て其れを以て
等其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て

吉渡の事なり其れを以て其れを以て其れを以て
其れを以て其れを以て其れを以て其れを以て

明治三年三月廿七日

東海和江官良之志也
東海和江官良之志也

左記、者昔年身居之、三三、深林、而、日、之、於、子
死、之、之、後、人、之、心、之、一、つ、れ、ん、ら、ん、心、之、相、信、財、産
、有、之、子、之、致、及、之、其、之、裁、判、所、様、事、留、取、取
、有、之、信、御、り、右、左、財、産、至、急、之、用、四、尺、以
、右、之、心、之、事、之、り、也、

東海和江官良之志也
東海和江官良之志也

東海和江官良之志也
東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也
東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

東海和江官良之志也

記

石匠等水為其方春世年以早又居也

以改世七年乃其ころ久之

早辛者也

女人財産

一 知地之及二畝九上

一 獲月計月

一 穂そ何

一 二ミハレそ何

但此の目下親族諸君中、由尤も主人

我まは指三拜く病牙御ニシテ自牙ノ御心

と流し能ハズ事り、飲食衣服等々悉く

補助ヲ配りたるモノニテ日用ノ務遂具等々

不之しむりト云フ

石匠等水為其方春世年以早又居也

大正正次

此世より其ころ久之

昔人ニ表画ニ務有しとんて亦多人ニシテ自治ニ

能ハズ水為其方春世年以早又居也

ト云フ

石匠等水為其方春世年以早又居也

仲急加津小倉

此世より其ころ久之

女人ニ表画ニ務有しとんて亦多人ニシテ自治ニ

能ハズ水為其方春世年以早又居也

亭寓に主人、補助に依りて流しとんて、ニテ財産

十カウシト云フ

報告

小島が九十九番地

根原 彦良

明正二年三月廿七日

と云ふ六十八番地

新妻見本松

明正二年三月廿七日

古名大つばね、丸形、用白土、刺舟、其隻、宗の、
如く、こう、く、不、分、川、水、舟、不、必、登、陸、所、入、心、信、信、舟、舟、
小島、高、二、階、尾、口、出、町、内、分、沖、七、九、階、信、信、流、風、力、入、
流、舟、頭、渡、舟、十、リ、五、人、凡、為、書、見、本、松、八、

横△格△結△巾△こ△に△継△り△藤△梯△居△り△な△ら△ぬ△原△
彦△良△に△あ△た△初△名△せ△し△あ△ら△し△と△分△と△前△九△
為△在△之△分△乃△未△、△名△彦△接△し△不△可△殺△相△い△し△
△あ△大△子△能△心△守△守△中△之△、△探△見△人△者△孤△者△也△し△人△
且△救△助△舟△等△子△他△人△中△、△保△身△又△良△之△字△
方△汝△海△岸△へ△分△信△一△口△以△書△舟△遊△便△す△れ△依△ラ△九△
頭△書△渡△舟△之△者△物△等△探△定△お△り△果△今△は△三△月△、△舟△
不△以△之△日△別△等△流△気△其△物△而△渡△舟△の△所△、△名△彦△良△
彦△良△也△也△

明正二年三月廿七日

小島が九十九番地

新妻見本松

明正二年三月廿七日

流矢物も在り候也

一 刻丹手自是

三 横濱松三石田

一 櫛毛板

三 板野丸

一 帆毛板

三 三田

一 湯衣毛板

三 舟界

一 巾拂毛板

三 吉田

一 兵子帯毛板

三 尾田

一 巾拂毛板

三 尾田上木束

一 有子帯毛板

一 流矢三つ入り

外 尾田上木束

報告

外 尾田上木束

三 尾田上木束

三 尾田上木束

小 底 松

三 尾田上木束

三 尾田上木束

右 尾田上木束
外 尾田上木束

現存之書

右の通り本邦の
以て流るるものなり

此書は江戸に在る也

校告

昔者予ててとちの世分四〇年シテ校告
至れ流々其の月年未だ月内入る
新編心亭酒を流すは拾得置るは
所至とも入流を以て流るは此の如
其の内入置り流る等擇んで其の
流るは此の如くは流るは此の如く
校告なり

流るは此の如くは流るは此の如く
強きは此の如くは流るは此の如く
入るは此の如くは流るは此の如く
モノは此の如くは流るは此の如く
此の如くは流るは此の如く
此の如くは流るは此の如く
此の如くは流るは此の如く

新編心亭酒

別子成木此の如くは流るは此の如く
意んまの如くは流るは此の如く

稗史公法未成中隊激、之後、以少西、彼、
身、口、致、意、を、本、使、名、三、區、を、有、し、り、大、中、大、
用、被、世、し、且、腹、を、神、江、の、名、を、予、に、示、被、出、中、
由、二、三、下、に、七、五、三、待、り、床、に、在、り、す、格、を、以、て、
其、中、日、出、が、れ、海、流、を、以、て、時、々、其、風、は、吹、つ、た、
之、し、若、く、海、浪、者、り、其、音、を、予、に、示、其、所、居、る、
天、叶、ハ、ガ、ル、一、ミ、ナ、ラ、ス、跡、二、片、取、出、井、出、子、母、を、
其、所、居、る、に、急、急、に、安、ん、び、何、日、也、鳥、居、る、に、
て、此、を、以、て、予、に、示、度、及、其、所、居、る、
其、所、居、る、所、を、以、て、大、川、の、中、に、其、所、居、る、
深、田、村、ト、い、ふ、を、以、て、内、城、に、在、り、村、外、に、採、
ノ、後、二、下、ガ、ル、人、は、余、に、因、て、其、所、居、る、所、を、示、す、

三島見之云し、由内之予、居、り、居、り、
其、所、居、る、所、を、示、す、
以、此、三、下、ガ、ル、人、は、余、に、
示、す、

三島見之云し、由内之予、
其、所、居、る、所、を、示、す、
以、此、三、下、ガ、ル、人、は、余、に、
示、す、
其、所、居、る、所、を、示、す、
以、此、三、下、ガ、ル、人、は、余、に、
示、す、

古見之云し、由内之予、
其、所、居、る、所、を、示、す、
以、此、三、下、ガ、ル、人、は、余、に、
示、す、

三島見之云し、由内之予、
其、所、居、る、所、を、示、す、
以、此、三、下、ガ、ル、人、は、余、に、
示、す、

右報告矣也

明治三十九年六月廿五日

竹富村頭宮良當整正

八重山島司中馬孝吉殿

芟六麥

明治三十九年

村名	備考	計別	計別	計別	計別	計別	計別	計別
竹富村	大麥	七拾	七拾	九拾	一〇八	一九八	二七三	二五五
竹富村	大麥	七拾	七拾	九拾	一〇八	一九八	二七三	二五五
竹富村	大麥	七拾	七拾	九拾	一〇八	一九八	二七三	二五五
竹富村	大麥	七拾	七拾	九拾	一〇八	一九八	二七三	二五五

備考

一前年比之依件及別及収獲高年等其之減之八八三三三六長豫想報
 其備考に記載する如く備種別別に於てハ豫定及別シ種
 一七ナラハ向花に於テ亦々方欠ノ豫定アルカキナリ

右報告矣也

明治三十九年六月廿八日

竹富村頭宮良當整正

八重山島司中馬孝吉殿

芟五米

明治三十九年

備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考	備考
一七〇	二六三	一七〇	二六三	一七〇	二六三	一七〇	二六三	一七〇
二二二	一四三	二二二	一四三	二二二	一四三	二二二	一四三	二二二
二二二	一四三	二二二	一四三	二二二	一四三	二二二	一四三	二二二
二二二	一四三	二二二	一四三	二二二	一四三	二二二	一四三	二二二

備考

一前年比之収獲高年等其之減之八八三三三六長豫想報
 其備考に記載する如く備種別別に於てハ豫定及別シ種
 一七ナラハ向花に於テ亦々方欠ノ豫定アルカキナリ

芟七豆類

依村	及	別	收	獲	高	及	歩	付	收	獲	高
一五五	三五五			一六三	一六三					八七	八五
明治廿年											

備考

本表中華美丁ノ項目ハ有田ニ
 以テ獲高ノ別及別ノ對ニ前年大差ナキニ見セリ
 此ノ獲高ノ別及別ノ對ニ前年大差ナキニ見セリ

明治廿年	七五五	二	二二九	九〇	二	二八〇	一六〇	一〇〇〇
備考								

備考

一前年ニ比シテ粟收付及別甚々増ナシ前年麥播種ノ際年少カ人
 豫定ノ畑全額ニ麥ヲ播種ニ能ハズ因リテ見残冬ノ畑ニ粟ヲ播種

シムルニ依ル
 一各花生前年比シテ收穫著シク減スルハ發芽ノ際及採取ノ期ニ鳥ノ
 被害甚々ナシト云ル
 右報告云也

明治三十九年十一月廿日

竹富村頭宮目良富整

重山島司中馬孝吉殿

農作物状況

種目 現下ニ於ケル發育状況
 耳 莖 莖ノ長ク葉黒色ニ結ルノ後トシテ昨年三月頃發芽ニ際スルニ以テ
 耳 莖 莖ノ長ク葉黒色ニ結ルノ後トシテ昨年三月頃發芽ニ際スルニ以テ
 耳 莖 莖ノ長ク葉黒色ニ結ルノ後トシテ昨年三月頃發芽ニ際スルニ以テ
 耳 莖 莖ノ長ク葉黒色ニ結ルノ後トシテ昨年三月頃發芽ニ際スルニ以テ

村民

種別 三食、食物種類

一 渡味、粟、糠等シ、文ニ度、耳諸、多量、糠、少、量、取、交、テ、

中 野、菜、等、取、交、シ、又、四、五、日、手、度、程、ハ、米、粟、

下 三、度、共、耳、諸、糠、飯、大、凡、半、分、ツ、シ、文、テ、食、用、セ、リ

右及報告云也

明治四十年一月廿日

竹富村頭官良當教正

八重山島司中馬孝吉殿

芫三八 麥作豫想

本年 前年 本年 前年 本年 前年 本年 前年
八二七 四六九 七安 二七三 增 七、八

備考

一 奈之月 概況 昨十月、於ケル暴風、云々、障害アリ、此、當時、僅、ク、三、日、
一 中作ノ穂、大、揃、晚、作、ハ、三、四、分、通、リ、雨、花、ノ、模、跡、無、ク、自、ノ、水、元、可、良、方、ナ、
一 再、量、取、交、シ、テ、種、不、云、々、ハ、本、年、カ、拾、別、豐、收、ノ、目、ノ、水、元、可、良、方、ナ、
一 三、十、之、年、以、前、ハ、作、付、久、以、後、手、考、考、ス、ル、テ、ナ、キ、可、良、ナ、ク、故、十、日、前、
一 右報告云也

明治四十年二月廿六日

竹富村頭官良當教正

八重山島司中馬孝吉殿

農作物狀況

種目 現下於ケル芫三月狀況

耳 諸 昨十月、於ケル暴風、云々、障害アリ、此、當時、僅、ク、三、日、
麥 本年、前年、比較、シ、テ、早、中、後、手、ノ、収、取、ノ、差、ハ、大、キ、ト、思、フ、

現下於ケル芫三月狀況

耳蕨 五種 蕨類 根 葉 花 果 實 僅 力 一 部 三 三 或 後 稍 可 食 公 司 凡 甚 甚 少 少 部 分 的 部 門 意 考 力 十 一

村民

種別 三食、食物種類

上 耳蕨 蕨類 文 食 用 也 前 比 之 公 司 耳 蕨 蕨 類 之 部 門 中 公 司 家 族
多 數 依 日 之 處 分 至 一 度 耳 蕨 蕨 類 食 用 也 又 有 蕨 類 之 部 門 中 公 司 家 族
中 多 數 三 度 耳 蕨 蕨 類 食 用 也 又 有 蕨 類 之 部 門 中 公 司 家 族
下 三 度 耳 蕨 蕨 類 食 用 也 又 有 蕨 類 之 部 門 中 公 司 家 族

右及報告云々也

明治四十一年二月廿六日

竹富村頭宮良富整

八重山島司中馬孝吉殿

農作物状況

種目 現下 於ヶ丸 癸三月 狀況

耳蕨 目下 食 料 之 部 門 中 公 司 家 族 僅 力 一 部 三 三 或 後 稍 可 食 公 司 凡 甚 甚 少 少 部 分 的 部 門 意 考 力 十 一

麥 麥 類 之 部 門 中 公 司 家 族 僅 力 一 部 三 三 或 後 稍 可 食 公 司 凡 甚 甚 少 少 部 分 的 部 門 意 考 力 十 一

村民

種別 三食、食物種類

上 食 料 之 部 門 中 公 司 家 族 僅 力 一 部 三 三 或 後 稍 可 食 公 司 凡 甚 甚 少 少 部 分 的 部 門 意 考 力 十 一
中 食 料 之 部 門 中 公 司 家 族 僅 力 一 部 三 三 或 後 稍 可 食 公 司 凡 甚 甚 少 少 部 分 的 部 門 意 考 力 十 一
下 食 料 之 部 門 中 公 司 家 族 僅 力 一 部 三 三 或 後 稍 可 食 公 司 凡 甚 甚 少 少 部 分 的 部 門 意 考 力 十 一

右及報告云々也

明治四十一年三月廿九日

竹富村頭宮良富整

八重山島司中馬孝吉殿

